

修学旅行特集



① タクシー研修でのカヌー体験
② 現地の人との触れ合い
③ 伊江島民泊
④ 伊江島のシンボル城山(タッチウ)を背景に「はいちーず!」
⑤ 沖縄の守り神「シーサー」
⑥ 海なんてなんくるないさ〜♪

「国のために死ぬ」多くの住民を巻き込んだ暗闇の言葉。

「いってらっしゃい」伊江島に出来た新しい家族の言葉。

過去と現在を行きつ戻りつしたこの旅の終わりは、まだ来ない。

「沖縄の景色はとても新鮮で、むちゃくちゃきれいだったけど、基地があることで悩まされている人もいたり、

基地反対の人ばかりでないことなどを知って本当にいろんなことを考えさせられた。自分の中でもまだ結論は出ていない。」

という生徒の言葉が、旅の成果を物語っている。

「同朋オープン・フォーラム2011」開催される

～ 話せばわかる・話せば変わる～

12月10日(土)は高校多目的ホールで「話せばわかる・話せば変わる」を合言葉に「同朋オープン・フォーラム2011」が開催されました。全体会では用意した160席がほぼ満席の状態、その後の分科会にも140名が参加し、終了時間いっぱいまで熱心に話し合いが続きました。全体会では三重大学教授佐藤廣和先生が、「今、学校に何が求められているか」と題して、3・11の震災をきっかけに大きく変わった価値観を柱に据え、学校のありかたや地域との関わり、学校に入り込んでいる市場原理の問題点などをわかりやすく話していただきました。最後に「命を守る教育が学校にもとめられており、そのために学校が地域と手を携えて学校づくりを進めていく事が大切である。つい子供の学力に目が向いてしまう親にとってはこの点は理解しにくいかもしれないが、「話せばわかる・話せば変わる」の精神で話し合っ

て一致点を見つければいい。」とまとめていただきました。参加者のみなさんも問題提起での学校と地域とのつながりの大切さや学力は単なる知識ではなく、「生きて働く力」だと言う事を感じとっていただけたようです。

Schedule (行事予定)

2月	
18 土	卒業式(17日:リハーサル)
21 火	2年音楽科午前授業、見真の日
22 水	2年音楽科学年末考査(～2/28(火))
27 月	学年末考査(～3/2(金))
29 水	2年音楽科代休
3月	
1 木	2年音楽科答案返却(～3/2(金))
3 土	2年修学旅行(～3/9(金))
5 月	答案返却(～3/7(水))
8 木	家庭学習(3/9(金)・3/13(火))
10 土	第7回かぜの会
12 月	判定発表・教科書渡し
19 月	終了式

今回は久しぶりに地域の市民の方の参加をいただき、高校に対する要望や貴重な意見をうかがう事ができ、地域と学校の関わりを考え直すいい機会となりました。また、自主活動の分科会では佐藤先生が全体会で「本当の学力とは他者との関わりの中で発揮されるものだ」と定義されていましたが、同朋の自主活動は生徒のこういう部分を育てているんだということを参加者で共有できました。

写真展「Viva Doho Life」も食堂前ギャラリーを展示会場として生徒・父母・教師の生き生きとした姿を立体的に展示しました。前日、夜遅くまで準備された写真は見応えがあり、今年は展示スペースも広がったので父母だけでなく、通りかかった生徒達も足を止めて自分達の写真を懸命に探していました。

今年は「同朋教育フォーラム」という名称をより親しみやすい「同朋オープン・フォーラム」に変更し、参加者の大幅な増加を図りましたが、生徒の参加は増えたものの全体的には若干の増加に留まりました。「話せばわかる・話せば変わる」という精神は同朋の学校づくりの原点であり、久野副実行委員長の「いろんな人と話して感じて、新しい何か見つけていただけると幸いです。こうした新しい発見が参加者のみなさんあるいは学校を変えるきっかけになるかも知れません。」という参加呼びかけの言葉通り、参加者の何かが学校の何かが少しでも変わっていけば幸いです。(教諭/瀧 正範)

お知らせ

エコキャップ運動にご協力を

守ろう森林 送ろうワクチン

ワンゲル部は文化祭後もペットボトルのキャップを集めています。教室のキャップ箱に入れて下さい。

ペットボトルのキャップ400個で10円。焼却すると3,150gものCO₂が発生します。ポリオワクチンは1人分20円。キャップ800個で子ども一人の命が救えます。

*回収場所…各教室と食堂前の自販機横です。同朋高校ワンゲル部

平成23年度「愛知県私立学校経常費補助金」の交付金額が決定!

保護者の皆さまにはご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育にご支援を賜りありがとうございます。また、本校体育館など地域毎に開催された「地域別県民文化大祭典——オタムフェスティバル」へのご協力や助成金署名など私学助成金増額の運動にご協力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、平成23年度の愛知県私立学校経常費補助金の交付金額が407,244千円(生徒一人当たり補助額34万3665円)と決定しましたのでご報告します。県の財政状況悪化のなかでの補助金交付に感謝するとともに、今後一層の教育条件の整備充実に努め、健全経営に向けて財政の安定化を計る所存です。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

●同朋高等学校「愛知県私立学校経常費補助金」交付決定額

年度	一般補助金	特別補助金	事務費	総額	生徒数	一人当たり補助額
平成23年度	395,685千円	10,628千円	931千円	407,244千円	1,185人	34万3665円
平成22年度	420,699千円	10,400千円	961千円	432,060千円	1,284人	33万6495円

修学旅行



新刊書「最前線兵士が見た『中国戦線・沖縄戦』」の、元・兵士、近藤さん(91歳)の講演会を実施して

過去の沖縄と現在の沖縄をつないでいった4日間

2年生普通科・商業科の生徒、引率教員と今年度も3団に分かれての「沖縄修学旅行」へ行ってきました。教職員側では生徒たちが入学して以来、ずっと準備を進めてきた修学旅行、また、生徒たち自身も事前学習をし、沖縄を感じ取る準備をした上で参加した修学旅行。

沖縄では事前に学んだことが体験と結び付き、また現在の沖縄を取り巻く諸問題についての思いも「種」として生徒の中に蒔かれたかと思っております。平和社会についての学びはもちろんですが、2000年度に始まった「タクシー分散研修」、2007年度から始まった「伊江島民泊」についても、生徒たちは実に素直に「よかった」と受け止め、仲間と共に過ごした4日間が生徒たちにとって、本当に思い出となったことは「沖縄修学旅行に行つてよかった」という満足度が94.6%

(過去最高)という数字にも表れているかと思えます。

修学旅行を通して学び、感じたたくさんのが、今後の生徒たちの人生でさらに大きな成長とつながっていくことを信じています。支えていただいた大勢の皆さん、本当にありがとうございました。

(教諭/寺町)

1990年に始まった沖縄旅行。事前学習の環として、92年から、修学旅行実行委員と希望者に開講されてきたのが、講演「元兵士が見た沖縄戦」です。その多くは、桑名市在住の元兵士・近藤(はじめ)さんにお問い合わせしてきました。

実は、近藤さんは、昨年9月、中高校生向けの書籍「最前線兵士が見た『中国戦線・沖縄戦の実相』(学習の友社、1403(5842)5641 注文可)を出版されました。それならば、ぜひ今年には近藤さんにお問い合わせしました。

近藤さんは言います。「少年時代は皇民教育を叩き込まれ、中国では『刺殺訓練』をやらされ、『盲実検』を見せ付けられるうちに東洋鬼(トナンヤキ)になっていた。沖縄では戦場に捨てられた」と。

91歳とは思えない迫力でした。80名が参加。「そんな青春時代を送らなければならなかったなんて」と、講演後10数名の高校生が残り、座談会も。戦場の悲惨さがよく伝わった講演会でした。

(教諭/宮城)



平和宣言文

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

日本にはこんな素晴らしい憲法9条があります。しかし多くの人はこの憲法を忘れてるか、知りません。恐怖と闘い、家族を守り、生きていたいと思いつつも、国のために死んでいった時代……。

今年で戦後66年。私たちは毎日食事を摂り、学校に通い、友だちと話しています。充実した日常を過ごしています。そんな日常とは離れたどこかで、今も戦争で多くの方が亡くなっています。

きっと、世界に比べれば日本は平和になりました。そんな日本にも、かつて、今の私たちには信じがたいような残酷な戦争がありました。多くの犠牲者を出した沖縄戦。軍や当時の教育によってもたらされた集団自決。日本兵が捕虜にした酷いこと。私たちが目を背けたくなるような事実がたくさんあったそうです。その方たちはきっと思い出したくないことを、覚悟と強い思いの下で戦争を知らない私たちに伝えてください。

今もまだ沖縄に米軍基地がある日本では、今後必ずしも戦争に巻き込まれないとは言えません。米軍基地のアメリカ兵による沖縄県民への暴行事件や、戦闘機がいつ墜落するか分からないなど、米軍基地があることで沖縄の人々に多くの不安を与えています。米軍基地があるというのは、いつ戦争が起こるか分からないということ。ひとりひとりが命の大切さを考え、国際平和主義であるという意識を再び高め、戦争が起こらないようにしていかなければなりません。

また、沖縄の意志を無視した密約を重ねる政府、戦争中と何も変わっていない政治を私たちは正していかなければなりません。

私たちは実際に戦争を体験した方々から話を聞くことができる最後の世代として、戦争の真実を知り、未来の子供たちに戦争の悲劇を伝えていかなければならないと思っています。戦争で亡くなった方たちの犠牲の上に立ち、その方たちのためにも戦争を二度と繰り返さないように努めていく義務があると思っています。

この崇高な理念で制定された憲法9条、そして憲法前文を学び伝えていきます。そして日本の平和をこれからも守り、戦争のない世界になるように努めていくことを、今日あらためて誓います。

2011年12月 愛知県私立同朋高等学校2年生一同



球技大会

1年生

大成功!! 熱く燃えた「スポフェス」

101 八田 悠暉 (清須市立清洲中学出身)



今回のスポーツフェスティバルはどうでしたか。僕はとても良いスポーツフェスティバルになったと思います。それはみんなが一人一人盛り上げてくれたからです。そして、年生のクラ連メンバーをはじめとした実行委員のみんなが裏方の仕事をとても頑張ってくれたからです。試合時間、ルール、チーム構成、種目決め等僕たち実行委員は真剣に試行錯誤を繰り返しました。そういった過程があり、無事にスポーツフェスティバルを終えることができました。

達を増やし、友情、絆を深めていきました。しかし、今回のスポーツフェスティバルはそれだけではありませんでした。気づいていましたか。クラスでする大きな行事としては、このスポーツフェスティバルが最後です。この二年生のクラスは、もうすぐ離ればなれになってしまふ、そんな中で行われたのが今回のスポーツフェスティバルです。それぞれに特別な想いがあつたのではないのでしょうか。少なくとも「勝利」を求めて、クラス丸となつて戦つたのではないのでしょうか。クラスの団結力はより一層高まりました。

「うんどうかい」をやると決めてから教員の手を極力借りずに、クラ連中心に少しずつ準備をしていきましたが、「タイムスケジュールや対戦表を作るところまで自分たちでやる」という今までやったことがない作業があつたことと、手配ミスや連絡ミス等もあり、中々集まつて話し合いをすることができなかったことが重なり、ルールが決まつたのは当日の2週間前でした。

どうしても終わらなかつたことや学校でできない作業は、家に持ち帰り夜中まで作業をしたりもし、焦りと不安いっぱい当日を迎えました。しかし、当日実際に行つてみると思つていた以上にみんなが協力し合い上手く進行でき、特に問題もなく終えることができました。参加した全員が満足していたかはわかりませんが、たかさんの「楽しかった!」という声を聞くことができ、企画・運営側としてはとても満足することができました。

3年生

自分たちで企画し運営できた 高校生活最後の学年レク「うんどうかい」

305 山田 麻衣 (弥富市立弥富中学出身)



音楽科 1年間の歩み

合唱・オーケストラ演奏会



アンサンブル演奏会



卒業演奏会





2009



2010



2011



合格を決めて

302 中谷 玲雄
(東里中学出身)



私は中学時代から宗教や戦争、ポラニア等に興味があり、その中でも特に宗教について学びたいと思っていました。中学時代は学校での勉強に興味を持てず趣味に走った結果、成績がかなり下がりました。しかし同朋で3年間過ごす中で培った経験を活かし、なんとか無事に同志社大学神学部、中京大学現代社会学部の2校に合格する事ができました。

白さに目惚れをし、他大学とは一味も二味も違う同志社大学神学部を第一希望にしたのは3年生になってからでした。受かる見込みの少ない挑戦でしたが、(実際、全力で挑んでも一度目の推薦では不合格でした)多くの先生方に支えていただき合格する事ができました。先生方には毎日小論文の添削をしていただき、問題集やアドバイスもいただきました。詳細で丁寧な推薦書も書いていただけ、本当に同朋生で良かったと思います。こんなに面倒見の良い学校はなかなか無いでしょう。

内定を決めて

309 柳本 美聡
(名塚中学出身)



私は、夢を持てず、進路で悩みましたが最終的に就職することに決めました。最初、事務をしようと思ったのですが、就職先がなく諦めました。そこで私の好きなことは何かと考えたら、ものを作ることでした。だから製造業にすると決めました。就職すると決め、3年生の文化祭の準備のころ、面接の練習が始まりました。最初担任の先生を相手に生徒4人が部屋に入り練習しました。みんな二人一先生に質問されて答えていきましたが、私は先生の前にいるだけなのに、みんなが見ていると思うと緊張して全く話せませんでした。その日は何もできず、次の日、先生と私とで二対一で練習しました。この日は話せても、声が震えて前とあまり変わりませんでした。もうこの頃は面接やりたくないとは思っていませんでした。でも先生からまた友達から励まされ、先生との面接練習を続けていきました。すると、最初全然話せなかった私が、笑顔でリラックスしながら話せるようになっていきました。入社試験当日は、面接官が4人ほどいましたが、全然怖くありませんでした。むしろ楽しく話せました。筆記試験の方は、適性検査と書いてあったのに、まさかの学科試験に近いものが出てきて焦りました。でも、

無事受かることができました。なので面接はすごくやつておいてよかったと思いました。やつていなかったら...と思うととても怖いのです。なので、お世話になった先生や友達にはとても感謝しています。背中を押してくれてありがとうございます。

目標に向かって何かをやるといふことは、辛いこともあります。頑張る努力すれば、きっといいことがあるはずと、私は改めて自分自身の経験から思っていました。